

## 令和6年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

### 1 日程及び場所

令和7年2月28日（金）

近畿中国森林管理局 4階 大会議室B（対面Web併用形式にて開催）

### 2 議題

- (1) 近畿中国局管内の木材需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

国産丸太の出材量は、中国地方では安定しているが、近畿地方では降雪の影響により減少している。原木市場の状況として、近畿地方では入荷が少なく市況が引き締まり、中国地方では東海や関西圏からの先行買いや地元の製材所の素材調達が進み高止まりの傾向が見られる。

住宅着工戸数については、管内の持家の着工戸数は前年同期で増加傾向が生じているが、依然として低水準にある。

プレカット工場は、建築基準法改正に伴う令和7年4月からの「4号特例」縮小の影響により前倒の受注を得ており、近畿地方では比較的好調だが、中国地方では駆け込み需要の反動で令和7年2月以降に受注が減少している。

合板の20%減産は継続されており、メーカー在庫が少なくなって安値の販売は無くなったとの情報もある。

木材チップについては、製紙用と燃料用の需要が競合して丸太が不足している。

輸入製材品については、羽柄材の間屋の在庫は適正水準以下だが、荷動きは相変わらず低調となっている。構造材の荷動きは令和7年1月中旬まで比較的堅調だったが、下旬以降には落ち着いている。

以上、原木供給不足によるチップ用材の需要ひっ迫が生じているが、住宅着工は依然として低調であり、製材品の需要も芳しくないことから、直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。

国有林においては、地域における木材需要動向、民有林材の出材状況等について注視しつつ、情報収集・分析を行いながら、素材生産事業を着実に実行し、木材の安定供給に取り組むことが必要である。また、立木販売では落札率向上に向けた販売方法の工夫を引き続き行うことが望まれる。

なお、木材需要動向、木材市況動向に大きく変化があった場合には、具体的な対応策を速やかに検討する必要がある。

## 〈主な情報、意見等について〉

### ○木材の需給動向について

- ・ アメリカ国内で挽く現地挽きについては、国内マーケットに対する需要の方が優先され、原木が入荷しにくくなっている状態である。
- ・ 和歌山県内の令和6年次の素材生産量については、30万m<sup>3</sup>で前年比105%（1万4,000m<sup>3</sup>増）となった。内訳としては、主伐83%、間伐17%となり、用途別では、製材用材は12万5,000m<sup>3</sup>で前年比100%、合板用材は3万3,000m<sup>3</sup>で前年比104%、チップ・バイオマス用材合わせて14万2,000m<sup>3</sup>で前年比112%となった。
- ・ 島根県の12月、1月の原木供給量については、2か月平均で、104.3%となっている。しかし、2月に入り積雪が多く、中国山地の奥では現場が止まった話も聞いている。原木市場の取扱量については、毎月の合計では前年を下回っているが、月別にみると12月、1月は前年比1割以上増加している。チップ関係について、2か月平均の出材量は前年比97.3%で、総出材量では前年比88.8%と1割以上減少している。発電用チップについては、2か月平均の出材量は前年比98.9%でほぼ変わらず。ただ一部の発電施設では、年末年始の休暇が長かったこともあり、原木不足で稼働を抑えながら行っている。
- ・ 合板については、1月から値上げを唱え、底値感が出て出荷は増加したが、20%の減産計画に対して増加しただけである。また、増産に合わせて、原木集荷をお願いしたが集まらず、結局米材を手当てして対応した。
- ・ 岡山県内のスギの原木価格はバイオマス関係で高騰しており、買い付けにくくなり在庫にて出荷していたが、今後どうするか思慮している。
- ・ 大阪府内の製品市場では、木材価格はヒノキが原木不足で強含み、その他は保合状態が続いている。販売量は、25,643m<sup>3</sup>で前年比2.3%増となり、国産材の比率は51.8%であった。前年比ではヒノキとホワイトウッドが増加、杉は減少、それ以外はほぼ横ばいである。住宅価格上昇の影響でプレカット工場からの注文の減少が長期化しているため、木材の荷動きは低迷状態が続いている。
- ・ 近畿エリアの並材市況はスギ・ヒノキともに10月寒伐り材から上昇し安定。BC材は製紙・バイオマス向け低質材価格の上昇により値差は少ないが、安定した価格が続いている。
- ・ 大阪府内の製品市場では、10月は前年と比較して販売量が5.1%増、入荷量が13.3%増。前月との比較では売上高が6.8%増、販売量が11.3%増、入荷量が8%減となった。木材価格は全体的に需要減で弱含みの状態が続いている。

### ○今後の見通し

- ・ 島根県の2月から3月の伐採量については、減少傾向が見込まれる。
- ・ 近畿エリアでは、補助金予算の関係上から搬出を伴わない除伐作業にシフトした経緯が影響しており、春先に向けて大幅な増産は見込めず、今後の計画次第では夏場の出材量も不安視される。

- ・ 近畿エリアでは、昨秋から年始にかけても引き続き素材生産量は増えず、昨年早くから住宅着工不振・木材需要低迷のアナウンスが続き、山側に市況下落の不安を感じさせ施業意欲の減退を生じさせたことや2月は降雪の影響も受け出材量は更に低調な状況が続いている。

#### ○その他

- ・ 海外の原木については、アメリカではカナダからの木材に関税が掛かる予定であり、消費量の3割をカナダから輸入しているため、アメリカ国内の原木及び製品価格は上昇する見込み。よって日本に輸出する場合に、円安・現地インフレの影響も加わり輸入製品価格が相当高騰してくるのではないかと。
- ・ 物流の2024年問題について、兵庫県内の原木輸送を取り扱っている中堅運送業社2社が倒産し、関係のある運送業者についても事業の見直しを検討している。
- ・ 兵庫県ではスギの価値が変わってきている。チップ用材はスギが多く、3m、4m造材ではなく適当に切った材が出材されている。A材は流通（市場等）するが、B材は平均単価で行くとチップの方が高い。その結果、スギの出材量は少なくなる。経営計画を組み、補助金申請箇所については、同じ搬出費をかけて同額の補助金が出るのであれば、ヒノキを搬出した方が割れが出るし、搬出しやすい箇所だけ搬出し、スギの出材量は、例年並みとの統計が出ているが、かなり減少すると予想している。
- ・ 認証材について、SGEC（日本独自の森林認証）やCoC（加工・流通）がある。同じ値段で売るなら認証がついている材の方が原木価格は高くなっている。岡山で半年前にSGECを多く取得したことで、承認材以外と比較して3,000円上昇し、今では7,000円となり取り合いになっている。
- ・ クリーンウッド法をはじめ、FSC、SGEC、FPECなどの森林認証、各府県が定める府県産材など様々なものがあり、それぞれの関係が分かりにくくなっている。